

SOCIUS

No.17

2022

[ソシアス]

仁愛女子短期大学 総合学務センター
入学・地域支援課

INDEX

1. はじめに

- ・地域社会との持続的な連携関係を通じた学生の学びを……………内山秀樹 1

2. 公開講座

- ・木製ロボットとプログラミングで遊ぼう! …………… 田中洋一 2
- ・手作り楽器ワークショップ …………… 木下由香 3
- ・木を使った造形あそびに挑戦してみよう …………… 重村幹夫 4
- ・驚くパソコン講座 ～簡単な操作で効率UP～ …………… 帆谷和浩 6
- ・福井の食を知る①「福井梅」～梅シロップ作り体験～ …………… 小林恭一 8
- ・親子のための楽しいコンサート …………… 河野久寿 9
- ・食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～ …………… 森 恵見 12
- ・Autumn English Camp –自然の中で英語を学ぼう! …………… 野本尚美 14
- ・幼児教育学科 フォローアップ講座 …………… 中尾繁史 15

3. 自治体等との連携事業(福井市・永平寺町・森田地区)

- ・令和4年度 保育研究合同発表会 …………… 増田 翼 16
- ・森田地区地域課題解決支援プロジェクト …………… 内山秀樹 18
- ・「木づかい体験会」への参加について …………… 香月 拓 19
- ・自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告 …………… 入学・地域支援課 20

4. 図書館の活動報告 …………… 竹下真弓 22

5. 令和4年度報告 福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室 …………… 安井弘二 24

6. 社会的活動報告

- ・ECOカー・ボディラッピングのデザインが採用に。 …………… 宮本未来 26
- ・サイバー防犯ボランティアが、スマホの危機を伝える。 …………… 西畑ゼミ 27
- ・トラッシュグリーン 拾ったゴミで生き物の制作と展示 …………… 岡本真奈 28
- ・二婆とのんちゃんの無人販売 …………… 木原望実 29
- ・季節の壁面を作ろう …………… 宮本瑠奈 30
- ・福井新聞社主催「ふくま祭」への参画 …………… 木下ゼミ 31

7. 公開講座開講一覧 …………… 32

8. 教員の地域活動一覧 …………… 34

はじめに

地域社会との持続的な連携関係を通じた学生の学びを

生活科学学科長* 内山 秀樹

ご縁をいただいて本学に着任させていただいたのが2005年4月。まちづくりを専門とする教員だということで、翌年3月に森田地区の若者のまちづくりグループに「住民主体の新しいまちづくりの動き」と題してお話をさせていただいたのが、地元森田地区との関わりが始まりであった。

奇しくも前職のまちづくりコンサル時代に関わった森田北東部地区土地区画整理事業による宅地造成が動き始めた頃で、リーダーの方から「新しい住民の流入が予想される。新旧住民が共有できるまちづくりの目標を持ちたいのだが。」という相談を受けた。「ならば住民の思いや夢を集めて森田の将来ビジョンを」との提案に地元が応え、検討ワークショップに取り組んだのが2006年6月。翌年にはその実現に向けて「歴史散策マップ」、「街路景観」、「特産品開発」の3チームが動き始めた。

さらに、本学との安定的な連携関係を確立できないかとの相談を受け、本学との連携協定締結に発展したのが2010年。これを契機にまちづくり分野以外の先生も含め、森田地区との継続的な関係が始まった。まちづくりについて挙げるならば、「夢まつり～夏物語」、「同～冬物語」と称して学生の参加が定例化していった。さらに、もりたまつりに合わせた「エコキャンドル」、2017年からはマイアクアでの「もりのわフェスタ」、2022年にはJR森田駅活用検討ワークショップを経て駅活用社会実験と展開していった。

これまでの取り組みで一貫してきたのは、地域の課題解決を通じて本学が地元森田地区に寄与すること。一方、学生もその取り組みに参加、参画させていただいて、机上の学びでなくリアルな地域社会との関係、真剣勝負から学んでもらうことを基本としてきた。例えば、学生が実行委員としてイベントのチラシを担当することに

なった場合、地元の広報物配布日が決まっているため、作業の遅れは許されない。授業では寛容にみてるかもしれない「できませんでした」という言い訳はあり得ないことを体感する機会としてきた。このような機会でも前向きに汗をかいた学生は一段階成長して卒業していった。

一方、学生がある地域に関わって苦い経験もある。「デザインを学んでいる学生さんだから、チラシの編集ぐらいさざっとできると思っていたのに」という苦情。しかし、手を貸してしまっただけでは学びにならない。辛抱強く対応させることを基本としてきた。このことがあってから、初めてお付き合いする地域や団体には、「学生はまだデザインを学び始めたばかりのひよこです。胸を貸すつもりでお付き合いいただけるなら…」と最初にお断りすることとしている。また、地域によっては「若者が参加してくれるだけで賑やかになる」ということで参加協力を要請されることもあるが、それだけが求められる参加は避けてきた。

高等教育機関の地域貢献という面では、これらの取り組みを進める上で教員の専門性にに基づくアドバイスで発揮することが前提になるが、このように学びのフィールドとして地域社会と付き合っていくには、お互いの信頼関係を構築した上でのギブ・アンド・テイクが重要と考える。

最近、県外大学が県内自治体との連携協定締結に積極的であるが、名ばかりの連携では？と思うものも少なくない。すでに永平寺町では幼児教育分野で継続的な連携が始まっているが、最も身近なステークホルダーである地元森田地区とのこれまでの連携関係をベースに福井市、県内へと広げ、真の社会貢献を通じてリアルな社会での学生の学びのフィールドとすることを期待したい。

* 2023年3月時点の役職です

公開講座

木製ロボットとプログラミングで遊ぼう！

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 田中 洋一

生活科学学科生活情報デザイン専攻の田中洋一です。7月30日(土) 14～15時、木のおもちゃキューベットと一緒に遊びながらプログラミングの基礎を身につける公開講座を開催しました。本ワークショップは、2020年度にエンゼルランドふくいイベント、2021年度に本学公開講座にて企画しましたが、どちらも新型コロナウイルス感染症対策のため中止しました。今回は、4歳から9歳までの6組21名の親子に参加していただきました。



木製ロボットプログラミング教材キューベット（プリモトイズ社）は、「直進」「左回転」等の動作を表すブロックをボードにはめ、スイッチを押すと、木製のロボットが指示通りに動き出すおもちゃであり、グッド・トイ2018にも選ばれています。キューベットが開発されたイギリスでは、5歳児からのプライマリースクール（初等教育）において、プログラミング教育を含む「Computing」が2014年に必修となっています。また、イギリスでは2012年に就学前ナショナル・カリキュラム（EYFS2012）が策定され、2018年には日本でもキューベット用EYFS準拠の指導案（イギリス）を用いた試行が始まっています。

本ワークショップは、幼児教育学科2年の近藤さんと田中さんにも手伝ってもらい、次のような流れで実施しました。

- ①あいさつ、今日の約束
- ②手遊び「アブラハムの子」
- ③キューベットと仲良くなろう！※仕組みを確認する。
- ④キューベットのお話を作ろう！

- ⑤キューベットとクイズをしよう！「キューベットは、どこへ行く？」
- ⑥青ブロック（サブブルーチン）を使ってみよう！
- ⑦振り返り

本ワークショップ終了後のアンケート（家族ごと）によると、とても満足5件、満足1件であり、自由記述からも全家族が楽しめたようです。他には、「子どもが楽しく興味を持つように工夫された講座だと感じまし



た」「4歳でもわかるように易しく説明・体験させていただいた」「話を自分で作り、どうしたらそうできるか、という考えを自宅でもやってみたいと思います」という意見がありました。

学生スタッフの感想は下記のとおりです。

講座前に「だるまさんがころんだ」等の遊びをしたことで、子どもたちと打ち解け、手遊びも楽しんで行えました。大人も子どもも楽しめる講座でオススメです。家族によって、子どもへの伝え方が違うことを観察できました。また、子ども一人ひとりによって、違った楽しみ方があることに気づきました。4歳児へ遊び方を伝えることは少し難しかったです。（近藤）

親子で楽しんでもらえて良かったです。親や子どもから「どうすれば良いのか？」と聞かれた際、もっと分かりやすく伝えたり声かけしたりすべきでした。（田中）

小学校からプログラミング授業が実施される現在、幼児向けのプログラミング遊びは重要だと思うので、2023年度以降も継続的に本ワークショップを実施していきたいと考えています。

公開講座

手作り楽器ワークショップ

幼児教育学科 教授 木下 由香

これまで、福井県内の公民館や生涯学習センターから、身近なもので楽器を作るワークショップの開催依頼をいただき実践してきました。対象は未就学児とその保護者の時もありましたが、作業にはどうしても保護者のサポートが必須で、日常の子育てから少し解放されたい気持ちがある保護者にとっては、少々負担のようでした。年長児から小学校低学年の子どもたちと実践していく中で、個人差はあるものの、子どもたちの言葉の理解や手先の器用さなどの向上も進み、楽器完成の見通しが立つことが分かりました。特に男児からは、音の出る仕組みについて高い興味関心を示す姿が見受けられました。楽器は当然のことながら音楽分野で取り扱うものですが、音楽だけでなく理学的な視点からも楽器にアプローチすることができると分かりました。これらの経験から、総合的な学習の場として今回のワークショップを企画しました。

開催目標として、「身近なもので自分だけのオリジナル楽器を作ってみよう！音はどうやって鳴るのかな？音からどんなことをイメージしますか？作った楽器をみんなの前で披露しましょう。」と掲げました。

今回は4歳から9歳の子ども、9名（男児4名・女児5名）と保護者5名がご参加くださいました。最初に、様々な既製の小楽器に実際に触れてもらうことから始めました。素材や鳴らし方などについても共有し、同じ作りの楽器でも、大きさや長さ、太さ、素材を変化させることで音がどのように変化するか、注意深く観察してもらいました。そして、「ぶるぶる紙コップ」「ウクレレバンジュー」「タンタンドラム」を作製しました。さらに、夏休みの自由研究としてまとめることができるように、当日はワークシート

を配布し、自宅でも振り返ることができるよう工夫してみました。

【日 時】2022年8月4日（木）10:00～11:30

【場 所】仁愛女子短期大学 E館4階ホール

【参加人数】14名（子ども9名、保護者5名）

○この講座に参加した理由

- ・つくるのがすきだから。たのしそだったから。
- ・色んな工作をさせたい。
- ・夏休み中の子ども向け講座で楽しめそうと思ったから。
- ・夏休みに子どもに体験させたかったから。

○感想

- ・いっぱいつくれてよかったです。ありがとうございます。
- ・とてもたのしかったです。
- ・色々な楽器に触れさせられて、良い機会になりました。ただの工作だけでなく、音についての説明もしていただき勉強になりました。
- ・色々な楽器に一気に触れることができて良かった。

参加者からは、このようなコメントをいただき準備した甲斐がありました。作製途中では、子ども同士や保護者が対話しながら、あれこれ試行錯誤する姿も見られました。また、面白い音が出た時は、保護者と顔を見合わせて笑顔で共感する姿もありました。今後も子ども達の要望に沿えるような企画を考え、地域交流を深めていきたいと考えています。



公開講座

木を使った造形あそびに挑戦してみよう

幼児教育学科 教授 重村 幹夫

【日 時】2022年8月5日(金) 10:00～11:30

【定 員】30名

【参加人数】10組 25名

「造形遊び」とは、昭和52年小学校学習指導要領「図画工作」において、「造形的な遊び」として、低学年に始めて導入されたものです。導入の目的は、「遊びの特性」としての、自発性、柔軟性、想像性、行為性を「造形活動」に保証することであるとも言われています。その後、「造形遊び」と改称されるとともに、小学校全学年に広げられ、「絵や立体、工作」とともに、「図画工作」の主要な学習内容となりました。

このような「造形遊び」は、導入されて45年もの歳月が流れたのにもかかわらず、現場における実践割合が低いという事実も聞きます。その理由としては「造形遊び」がいまだに曖昧な印象があることや、その評価が難しいと言った現場の思いも影響しているようです。

「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に「造形遊び」の記述はありませんが、保育の現場で実践されて来た内容と重なるとも考えられ、近年保育の現

場でも、取り上げられています。教科である「図画工作」と区別するため、一般に「造形あそび」と表記されます。

「造形あそび」というと、あたかも遊具を制作して、それで遊ぶ活動であるとか、保育の活動が主に「遊び」を通して行われていることから、保育における造形的な活動を全て「造形あそび」であるとか思われがちです。これらはよくある誤解です。

「造形あそび」の最も明確な特徴は、最初にテーマ(主題)が決まっていない点にあります。一般的に、イメージされる造形活動は「とんぼのけん玉を作ってみよう」とか「七夕の飾りを作ってみよう」などと、最初にテーマを示し、それに従って用意された材料や道具で「作品」を作り完成させることが多いと思います。それに対し「造形あそび」は、素材や材料、技法や行為等が示されますが、テーマは決まっていません。素材や材料、技法や行為がなされる中で、「作品」が出来上がり、結果としてテーマが決まってくる場合もあれば、いつまでも作り、壊しといった活動を続け、終わりが無い場合も見られます。

「幼稚園教育要領」には、「活動を豊かにすることは、いろいろなことをできるようにすることと同じではない。重要なのは、活動の過程で幼児自身がどれだけ遊び、充実感や満足感を得ているかであり、活動の結果どれだけのことができるようになったか、何ができたかだけを捉えてはならない」と記されています。これを造形活動に当てはめて考えると、造形活動の結果として「作品」が必ずしも完成しなくても良いと捉えることができるのではないのでしょうか。重要なことは主体的な活動の過程で子どもが学ぶことにあると考えます。

私は、2016年から坂井市保育研究会講師として、保育現場で子どもたちや現場の保育者に出前授業を行うことになりました。丁度そのころ「造形遊び」



について調べていましたので、その機会をお借りして子どもたちに実践してみました。最初は、自然素材を使った造形活動を行ってほしいとのことで、本学学内フェンスに自生した木の枝を当時の用務員さんに切ってもらい用意しました。初めての実践で不安もありましたが、その時のことは、よく覚えています。特に印象深かったのは4人の男児のグループです。彼らは何かを話し合い、材料を手になると床に並べ始めました。最初は、サークル状でしたが、次々と形を変えながら協力して並べ替え、積み上げていきました。驚いたのは彼らの表情です。それは真剣そのものでした。この時の経験を通して、私が子どもを見る目は変わりました。それは、彼らがまぎれもない「創造者」であるということです。それ以後7年間にわたって様々な保育現場で出前授業を行ってきました。材料や技法を変えながら様々な「造形あそび」を実践してきました。常に主体的に集中して参加してくれる子どもたちもいますが、テーマが決まっていないという点で最初は戸惑う子どもたちも見られます。

今回の実践では、木材を中心として、竹や紐等様々な廃材を用意しました。接着には、グルーガンやボンドを用います。必要に応じてのこぎりで切れるようにしました。全体として、子どもたちは極めて集中して取り組んでいたと思います。アンケート結果も概ね好評でした。90分行いましたが、時間が足りないという意見もありました。しかし、若干ですが最初にテーマが決まっていない事で、抵抗感を感じた子どももいたようです。今後も、子どもたちの感性や創造性を豊かにする造形活動に取り組んでいきたいと思います。



驚くパソコン講座 ～簡単な操作で効率UP～

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 帆谷 和浩

1. 私の情報学習指導は30年前からの「情報知力」の育成を考慮に入れた Skype オンライン学習が基礎となっています。そのため、教科書やテキストの内容を順番に実習し覚えていくのではなく関連した内容を系統化し、学習内容のまとまりで考え自らが実習を行いながら同時にまとめていくという手法でテキストを作成し体験していただきました。

まず、ローマ字入力のタッチメソッドの常識を覆し、キーボードの配置から実習を行っています。キーの[G]と[H]を区分する線を身体の中央になるように配置します。その次にキーボードとディスプレイを見ないで、指示した母音にあたる指をタッチすることで「あいうえお」が表示するように指を動かして確かめます。ディスプレイは確認のみです。

その他の文字は子音との組み合わせであることを理解していただきました。



2. 「効率の良い起動の準備」の実習

操作の効率化を図るための準備設定を実習しました。

- ①リボンメニューを覚える習慣がついてしまうため縮小設定を行い隠しました。
- ②アイコンはソフトウェアの起動の効率化を図るためにタスクバーにドラッグ&ドロップでピン止めをしました。
- ③各ソフトウェアのスタート画面が「白紙」でないため「白紙」様式にしました。



ソフトウェアの
スタート画面設定

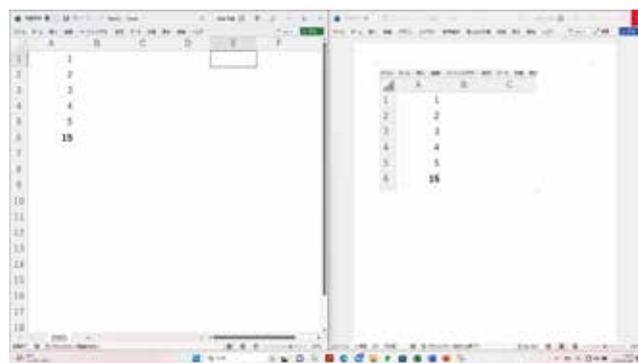
3. 「効率の良い終了と画面ロック」の実習

学習の集中力と持久力を高めるために操作の簡略化を実習しました。ソフトウェア右上の[X]をマウスでクリックするのは効率が悪いため同じ操作で選択する方法を実習しました。

- ①ソフトウェアの終了とシステムの終了をショートカットで選択し、終了させる実習をしました。
- ②将来のパソコン実務を意識して、席を離れるときに他人に見られないように画面のロックをかける・ロックの解除の実習をしました。

4. 「ディスプレイの画面分割と画面拡大」の実習

ディスプレイを2分割させる方法が有効であることを理解していただき、実習やテキスト画面とまとめやメモを同時に取ることで学習効果が上がること、並びに学習の転移が始まることを体験していただきました。



・左が実習
・右がメモ・レポート

- ①画面のソフトウェアの左右はどちらでもいいから自らが考え易い配置でいいことを理解していただきました。
- ②Excelのセルの拡大や文字の拡大で高齢者にも優しい操作ができることの実習をしました。(マウスのホイールボタンの使用方法)

5. 「画像の挿入とトリミング」の実習

- ①ショートカットキーのスニッピング（ディスプレイ画像の切り取り）でレポートに画像を貼り付ける方法を実習しました。
- ②貼り付けた画像を編集するトリミングの実習をしました。
- ③画像を手動回転させる、図形内に画像を挿入する（応用）の実習をしました。
- ④画像のグループ化の実習をしました。



<https://www.msn.com/ja-jp/news/national/>
「福井県水害」検索・出典

6. 「音声の活用」の実習

文字だけでは理解度が低く、聴覚を生かして理解力を高める実習をしました。

- ①インターネットサイトの文字を読み上げさせ聴きながらレポートするコツを実習しました。
- ②Wordの文字に入力ミスがないかを音声で聴く実習をしました。

7. 「日付・時刻の入力」の実習

ExcelとWordを同時に起動し、日付・時刻入力の比較実習をしました。

- ①文字としての入力と同じことができることの実習をしました。
- ②Excelの関数を用いて入力し、Wordにコピー＆ペーストする実習をしました。

8. 「Excelの簡単な入力・集計方法」の実習

- ①セルの簡単な範囲指定方法のコツの実習をしました。

- ②関数の頭文字を入力する簡単な関数入力の実習をしました。
- ③マウス操作のみでの集計ができることの実習をしました。
- ④ショートカットの時短操作で集計する方法の実習をしました。
- ⑤1つの数値からオートフィルオプションで等差数列を作成する方法の実習をしました。
- ⑥分析をするために乱数を用いて表内に同時に数値を作成する方法の実習をしました。
- ⑦オートSum機能を用いて簡単に集計する方法の実習をしました。
- ⑧表内の基準列を中心に簡単に並べ替えをする方法の実習をしました。
- ⑨PowerPointは2つのソフトの操作スキルマスターで簡単にできることの実習をしました。

9. 公開講座を実施して

お盆の初日とコロナウィルスの拡大で辞退者が多かったのですが、受講された方々は気さくに声を掛けてこられて、「あっという間の時間でした。充実しております。感謝いたします。」と喜ばれて帰られました。

盛り沢山の内容でしたが、「オンデマンドではこのような体験はできません。楽しかったです。是非、何度でも応用編も開催していただきたいです。」と言われました。メニューを追いかけて操作を覚えるのでは時間が掛かることを理解していただきました。ありがとうございます。学外でもオンラインで開催したいものです。

[参加された受講者の感想]

- ・ついていくのに必死でした。初心者に近いのですが、便利だなと思いました。どうにか使えるようにしたいです。
- ・全然知らなかったことをたくさん知ることができてよかったです。難しいところがたくさんあったけど、少しだけでも身に付けたいと思う。新しいことを学ぶのは、すごく楽しかった。
- ・子どものために受講しましたが、親でも目からウロコの事もあり、仕事に反映させることができます。(時間短縮)
- ・勉強になりました。ありがとうございました。詳しく書いてあるテキストがほしいです。
- ・便利な効率的なやり方を学べて、とても良かったです。PPTの使い方はよかったです。素早くPPT操作できそうです。

公開講座

福井の食を知る①「福井梅」～梅シロップ作り体験～

生活科学学科 食物栄養専攻 教授 小林 恭一

【日 時】2022年9月3日(土) 10:30～12:00

【場 所】仁愛女子短期大学 B101 教室

【参加人数】10組(12名)

豊かな自然に恵まれる福井県には、米、麦、ソバ、ウメ、ラッキョウ、カニなど、里・山・海の幸すべてが豊富に揃っています。このような豊かな福井の食の魅力について学ぶ企画として「福井の食を知る」と題した公開講座をかねてから行いたいと考えていました。歴史や文化、栄養や健康維持に役立つ機能、おいしさなど、知ってるようで案外知らないものです。そこに関わった多くの先人達の努力も忘れてはなりません。



1回目は「福井梅」を取り上げました。「福井梅」は、江戸時代・天保年間(1830～1844)に、現在の若狭町で発祥したといわれる福井県を代表する果実です。この「福井梅」の特徴や栄養について解説いたしました。また、ただ聴くだけでなく、その食材を使った簡単な加工体験も試みました。今回は金平糖やみぞれ玉(飴)を入れた、見た目にも美しくおいしい梅シロップ作りを体験していただきました。

ウメは、バラ科サクラ属の果実で、中国西南、華中、雲南、台湾等に原生分布しています。一般的には遣唐使が持ち帰ったといわれますが、弥生時代の遺跡からも種核が発見されています。

ウメは酸味が強く、果物にはめずらしく生で食べること

はほとんどありません。もっぱら梅干しや梅酒などに加工しないと食べられない果実です。葉や保存食として全国に栽培が広がったのは戦国時代ですが、古来より日本人の生活に密着して、伝統、文化を形成してきました。

福井県では若狭町を中心に栽培され、和歌山県、群馬県に次いで全国3位の生産を誇っています(令和3年、農林水産統計より)。ウメの栽培が定着したのは明治15年頃からで、普及した地域をさして、「西田梅」と呼ばれ親しまれてきました。大正10年国鉄敦賀線の完成を機に、関西を中心に広く「西田梅」の商品価値が認められました。戦時中には軍需品として舞鶴海軍に納められ、戦後も「青いダイヤ」と称され重宝されました。昭和42年に「福井梅」に名称変更が行われ現在に至ります(福井県庁HPより)。

ウメは産地によって品種が異なります。有名なのは和歌山県の「南高(なんこう)」ですが、福井県では「剣先(けんさき)」「紅映(べにさし)」「新平太夫(しんへいだゆう)」「福太夫(ふくだゆう)」が栽培されています。これら品種や熟度による味や栄養成分などの違い、健康機能、加工方法などについて紹介しました。また「赤本」と呼ばれる家庭医学書の著者で「梅肉エキス」を全国に広めた築田多吉(つくだたきち、1872～1958年)など、本県ゆかりの人物も取り上げました。

これからも、魅力あふれる「福井の食」について、加工体験をとおして楽しく学べる公開講座を企画してまいります。



公開講座

親子のための楽しいコンサート

幼児教育学科 准教授 河野 久寿

小学校3年生以下の子どもとその保護者を対象に、仁愛女子短期大学附属幼稚園の体育館にて幼児教育学科学生・卒業生の協力のもと「親子のための楽しいコンサート」を開催しました。コロナ禍ということもあり、マスク着用などの感染症対策を行ったうえで募集人数も制限しコンサートを行いました。

コロナ禍のコンサートでの一番の問題点は大きな声で一緒に歌うことができないことです。また約50分と長時間の中で子どもたちが退屈しないような工夫を必要とします。音楽を聞くだけではなく、手遊びや踊りを盛り込み、体を動かすことを中心とした馴染みある曲を選曲。親子で音楽を楽しめる参加型のコンサートを企画しました。



● 参加…14組37名

○ 性別

	子ども	保護者
男性(男児)	7	1
女性(女児)	14	15
合計	21	16

○ 年齢・子ども

3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳
2	5	5	5	2	1	1

○ 年齢・保護者

30代	40代	50代	60代	70代
8	6	0	1	1

～コンサートプログラム～

合奏 (○) 歌 (●) 踊り (△) 手遊び (■)

1. はじまるよ (■)
2. ミッキーマウスマーチ (○●△)
3. 大きな栗の木の下で (○●△)
4. 幸せなら手を叩こう (○●△)
5. 手のひらを太陽に (○●△)
6. とんとんとんひげ爺さん (■)
7. げんこつ山のためきさん (■)
8. パンダウサギコアラ (■)
9. 白鳥 (クラリネットとピアノ演奏) (○)
10. 楽器紹介
11. ドレミの歌 (○●△)
12. ともだち賛歌 (○●△)
13. にじ (○●△)
14. ペンギンマークの百貨店 (■)
15. やきいもグーチーパー (■)
16. ぼよん行進曲 (○●△)



手遊びをしたり、



音楽に合わせて振り付け。



楽器紹介では楽器毎に1フレーズを演奏し、楽器の音色や特徴を子どもたちに知ってもらいました。



今年度は吹奏楽経験者としてドラムとベースを演奏できる学生が在籍し、園での演奏にて活躍しました。



ステージやピアノも可愛く飾り付け、学生自身も曲によって被り物を被ったり工夫しました。



休憩としてサン＝サーンス 組曲動物の謝肉祭より「白鳥」を曲の説明後に鑑賞。チェロの代わりにクラリネットで演奏しました。



コロナ禍の中でコンサートにて大きな声で歌うことができませんが、手遊びしたり踊ったり、観賞したり親子参加型のコンサートでした。アンケート結果でも、「とても楽しかった」「一緒に踊れたので楽しかった」「生の演奏を子どもに聴かせたかったので良かった」など感想を頂きました。今後も継続的に開催予定です。



～アンケート結果～

●講座内容について

とても満足 8 満足 3

●感想（抜粋）

- ・とても楽しかったです。また参加したいです。
- ・とても楽しかったです。ゆったりしていて良かったです。
- ・一緒に踊れたので楽しかったです。
- ・とても楽しそうに踊っていました。知っている曲ばかりで、とてもよかったです。楽器もたくさん知れて嬉しそうでした。
- ・子どもの知っている曲ばかりで、とても楽しめました。ありがとうございました。
- ・1歳の娘を家においてきたのですが、1歳の子も楽しめそうな内容でした！楽しかったです。
- ・和やかであたたかい雰囲気の中でのコンサート楽しかったです。子どもも満足していました。
- ・知っている曲がたくさんあって楽しかったようです。手あそびや踊りが少し早くて難しかったようです。タンバリンやスズなどで参加できたら、もっと楽しかったかと思います。本当の楽器と音が分かったのは良かったです。皆さん上手でした。
- ・もう少し演奏を聞きたかった。子どもにあわせて選曲して良かった。
- ・近くで生の演奏が聞いて良かった。声が子どもに馴染めるような声で良かった。楽器は座っていると楽譜で見えにくかった。立つと見えやすかった。学生さん達、頑張っていました！



公開講座

食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

毎年年末に開催される公開講座である“食育講座～親子でデコレーションケーキづくり～”、今年度も感染症感染防止対策を徹底して開催しました。

おうちでは一緒にケーキを作りたいけど準備が・・・と思っているお父さんお母さんのために、子供用の包丁など本学の広い調理室を使って、親子でケーキをデコレーションしてもらいました。フルーツなど飾り付けをして世界で一つだけのクリスマスケーキを作りました。



ケーキの作り方だけでなく、スーパーに売っている安価な生クリームと高価な生クリームの違いや、スポンジケーキを作る際のコツ、生クリームの泡立て方など、どうして? という疑問を解決しながら、説明しました。



親子の参加理由として、「前回参加したことがあり、その時にとても子供が喜んでいたので。」

「家ではなかなかゆっくり料理の手伝いをする機会がないから。」

「家ではデコレーションケーキを作るのが大変なので。」という意見がありました。



保護者の方からは、

「学生さんがテーブルについていてくださったので、心強かったです。コツも知れて勉強になりました。思う存分デコレーションを楽しめました。家ではなかなか一人で作るということが、子どもが何人もいとできないので、良い体験になりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。」

「とても良い記念になりました。下の子に手が取られていたので、学生さんには、とてもサポートしていただき、娘と一緒にケーキ作りができて喜んでいました。ありがとうございました。」

という嬉しいお声をいただきました。

子どもたちからも、

「久々にケーキ作りをして楽しかった。」「楽しかった。」「難しかったけど、楽しくできてとてもうれしいです。またやりたいです!」

と喜んでいただけた声が聞くことができました。

学生スタッフは、
「楽しそうで、子供たちと触れ合いながら、ケーキを作りたかったから。」

「地域の人たちと交流ができるチャンスだと思ったから。」
などと、積極的に14名の学生が参加をしてくれました。

今年は、各家庭に一人のサポート学生が協力できたことは、非常に手厚いお手伝いができたと考えられます。

普段子どもたちに教えることのない学生スタッフが、
どのようなことに気がつけたかを聞いてみると、
「否定するのではなく、提案するように言葉遣いを気を付けた。」

「子どもの目を見て、同じ目線で会話をしたり、作業をするように心がけた。」

「ケガをしないように気を付けながら、子どもたちが自由に作れるように見守った。」

と、どのように指導したらよいかを自ら考え、行動していました。



最後に参加した学生からは、
「講座前は、私もワクワクして、みんなが楽しんでくれたらいいなと思いながら参加しました。子どもたちの発想がとても面白くて、驚くことが多く、子どもの発見を私たちに生かしていきたいと思います。」

「講座前は、うまく教えることができるか不安でしたが、親子同士楽しそうにケーキをデコレーションしている姿を見て、私自身も楽しい気持ちになりました。今回のスタッフになって、要領よく物事を進めたり、子どもたちに伝わりやすい言葉選びなど、勉強になりました。保育園の就職も考えることができ、参考にしたいです。」

という感想がありました。参加者と学生にとって、満足度の高い講座を開講できました。

今年度の食育講座に参加していただいた皆さん、ありがとうございました。この食育講座は、地域に貢献できる講座でもあり、お手伝いの学生達の学びの場でもあります。令和5年度も、楽しく・美味しく・学びのある講座をこれからも考えていきたいと思っています。

公開講座

Autumn English Camp –自然の中で英語を学ぼう!

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 野本 尚美

体を動かしながら英語に親んでもらうことを目的として、英語とキャンプを組み合わせた公開講座「Autumn English Camp –自然の中で英語を学ぼう!」を開催しました。本学園職員でもあり、福井県キャンプ協会会員でもある山田浩隆さんに協力をいただき、歌やゲーム、キャンプの体験をとおして簡単な英語を学んでもらいました。講座の概要は以下の通りです。

【Autumn English Camp –自然の中で英語を学ぼう!】

○期 日：2022年10月15日(土) 9:30～12:00

○会 場：仁愛女子短期大学 学生ホール・芝生広場

○参加者：小学1～3年生の親子8組18名

○内 容

- ・アイスブレイク
- ・英語の歌 (Head, shoulders, knees and toes)
- ・英語版ラジオ体操第一
- ・英単語を使った薪割りレクチャー&薪割り体験
- ・英単語を使った火起こし体験
- ・スモアクッキング&試食
- ・英語を使ったマジック
- ・英語でビンゴ大会

○協力：福井県キャンプ協会(講師派遣、キャンプギア等)

当日はとても天気が良く絶好のキャンプ日和でした。芝生広場にはテントや椅子、テーブルなどが設置され、テント内で記念撮影をする参加者の姿も見られました。

簡単なアイスブレイクと英語の歌などで体を動かした後、山田さんに木材や薪割りについて英単語のクイズを交えたレクチャーをしていただきました。その後、福井県キャンプ協会オリジナルの薪割り器を使って、親子で薪割りを体験してもらいました。このときには理事長先生も飛び入りで参加してくださり、参加者の大人の方達と一緒に、子ども達が安全に楽しく薪割り体験ができるよう、協力をしていただきました。そのあとの火起こし体験はなかなか難しい作業でしたが、ようやく火が付いた時の感動は大きく、自分たちで起こした火で作ったスモア(焼いたマシュマロをポテトチップスで挟んだお菓子)も大変喜んでいただきました。

参加者の方からは「普段キャンプや火おこしをする機会がないので、非日常が味わえてとても楽しかった」「日常でなかなか体験できない事や、木の特徴など教えてください、英語も交えて学ぶことが出来てとても良い時間でした」などのご感想をいただきました。

来年度も、楽しみながら英語を学べる講座を企画したいと思います。



芝生広場に設置されたテントと英語版ラジオ体操をする参加者



薪割り前のレクチャーの様子



木材の特徴を観察する参加者



薪割り体験



薪割り体験



メタルマッチを用いた火起こし体験



火吹き棒を用いた火起こし体験の様子



スモア作り体験

公開講座

幼児教育学科 フォローアップ講座

幼児教育学科 准教授 中尾 繁史

【講座要旨】

在学中はいまいちイメージできなかったことが、幼児教育・保育現場に出たから「なるほど!」と思えた場面は多いのではないのでしょうか。今回のフォローアップ講座では、「子どもの発達支援」をテーマに、参加者の皆様と情報共有しながら、子どもたちとの関わり方のポイントについて学びます。

【開催日時・場所】

2022年9月10日(土) 14:00～15:00

仁愛女子短期大学 E208

参加者：6名

【講座内容】

講座申込時に記入した事前アンケートをもとにご参加の卒業生の悩みごと、困りごとについて情報共有を行いました。2020年3月の卒業生が3名、2021年3月の卒業生が3名で、昔を思い出しながら話をしてくれました。担当しているクラスは様々ですが、子どもたちの年齢や発達課題に応じた悩みがあり、参加者同士で共感する事も多かったようです。

今回の講座では職場の行事があり参加できなかったという卒業生が一定数いたようで、参加者も少数でしたが、それゆえ和気あいあいとコミュニケーションを取ることができる時間となったようです。今後は、同様の講座を複数回構えるなど、多くの卒業生が参加できるよう準備したいと思います。



自治体等との連携事業

令和4年度 保育研究合同発表会 (福井市・仁愛女子短期大学幼児教育学科 合同発表会)

幼児教育学科 准教授 増田 翼

2019年度から開始された「保育研究合同発表会」も、2022年度で4回目を迎えました。この発表会は、包括連携協定を結んでいる福井市との協働による開催で、学生の学修成果と現場保育者の研究成果を互いに発表し合い、学びを深める場として位置づけられています。残念ながら、2020年度・2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いWeb上（YouTubeチャンネル）における動画公開のみの開催でしたが、2022年度については、一部を対面開催へ戻すなどして学生と現場保育者がお互いに学びを共有できる場づくりを心がけました。2022年度の実施内容の詳細は右の通りです。

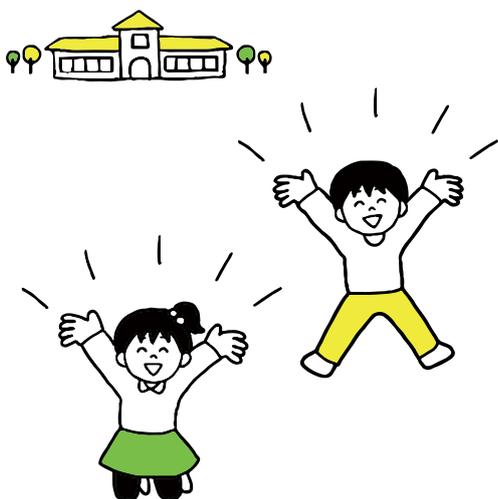
【YouTubeによる学修成果・研究成果発表】

- 公開期間 2023年1月27日(金)～2月13日(月)
- 内 容 ・福井市および仁愛女子短期大学からのメッセージ
・福井市公私立園の研究成果と課題発表
・仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生「保育総合ゼミナール」学修成果発表
- 視聴対象者
福井市公私立園保育者、仁愛女子短期大学幼児教育学科1・2回生
仁愛女子短期大学入学予定者(高校3年生:入学前学習)
その他、福井県内現場保育者、行政関係者、保育者養成校教職員など

【対面開催による「保育総合ゼミナール:学修成果発表会」および「分科会」】

- 日 時 2023年1月28日(土) 12:30～15:30
- 場 所 仁愛女子短期大学
- 内 容 12:30～13:45
幼児教育学科2回生「保育総合ゼミナール」学修成果発表会(5会場)
14:00～15:30
分科会(8会場)
- 参加者 ・福井市公私立園保育者
・仁愛女子短期大学幼児教育学科2回生

特に、対面開催による「保育総合ゼミナール:学修成果発表会」では、学生の学修成果に対して現場保育者の方々からご指摘、ご意見、ご感想などをその場で頂戴でき、学生自身にとって貴重な機会となりました。また後半の「分科会」に、現場の先生方



と一緒に参加させていただけたことで、普段、短大の教室で学ぶのとは異なる緊張感や雰囲気を感じながら、充実した学習につながりました。長く続いたコロナ禍が幾分緩和し始め、互いに顔と顔を合わせながら考えを交流し合う、という学びの形態を取り戻せたことは、来年度以降の保育研究合同発表会の開催形態を考えるうえでも参考となるでしょう。

最後に、2022年度保育研究合同発表会のYouTubeチャンネル（図1）および対面開催による学修成果発表会（図2）、分科会（図3）の様子を掲載しておきます。



図2 保育総合ゼミナール
学修成果発表会



図1 2022年度 保育研究合同発表会
YouTube チャンネル



図3 現場保育者および学生の参加による
「分科会」

自治体等との連携事業

森田地区地域課題解決支援プロジェクト

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 内山 秀樹

森田地区は、著しい人口増加の対応として“新旧住民の交流促進”、そして2024年3月に予定されている在来線の第三セクター化への対応として“駅の活性化”の2点が地域課題となっています。

これらの課題解決に向けた地元の取り組みを支援するために、「もりのわフェスタ2022」、「森田駅活用検討ワークショップ」、「駅活用社会実験 MoRe:Sta.」に学生と共に参画しました。

①もりのわフェスタ2022」(9/11)

生活情報デザイン専攻2回生18名が、「専門演習」の一環として「こどもの広場」で3グループに分かれて遊びコーナーを出店しました。また、「マルシェへの出店」を卒研として取り組んでいるグループも準備を進めていましたが、全員コロナに感染し残念ながら出店できませんでした。しかし、「森田人Tシャツ」については森田で広めることに意味があるため、教員が地元の方々の応援をいただいで販売を行いました。なお、フェスタのチラシのデザインは、本学西畑ゼミの学生が担当しました。

②駅活用検討ワークショップ(6/18、7/23、8/20)

ハピラインへの移行を見据えて、森田地区が駅の活用策を検討したいとの意向に対して、3回のWSを提案し、その運営支援を教員とゼミ生2名が行いました。各回の

WSの企画案の提案、実施、7グループから出された意見を取りまとめました。

③駅活用社会実験 MoRe:Sta. (11/20)

1回生は、「マイプロジェクト」の一環として4グループに分かれて、「こども縁日」のコーナーに出店しました。①に出店予定だった2年生3名は、「卒業研究」の一環としてアクセサリーショップを出店しました。また、②をテーマとするゼミ生2名は、来場者アンケート等の企画、集計・分析を担当し、卒業研究として駅活用、駅周辺整備に関する提案を行いました。

④まとめ

1回生は学外に出て地域の大人や子どもたちと関わることの新鮮さの中で、地域社会の多様性やコミュニケーションの必要性を学びました。2回生はWS企画やアンケートなどを担当する中で、期限までに資料提出が求められるなど、社会のシビアさを実感し、社会人になるためのプレ学習の好機となったのではないかと思います。

また、地元森田地区にとっては、WSや社会実験の取りまとめや駅活用の提案が地元森田地区の次のステップに向けた検討の弾みとなり、老若男女がさまざまな活動で集える“場”が実現することを期待します。



9/11 もりのわフェスタ



6/18 第1回駅活用WS



11/20 駅活用社会実験

自治体等との連携事業

「木づかい体験会」への参加について

幼児教育学科 准教授 香月 拓

今年度、香月ゼミ・木下ゼミでは、福井県農林水産部県産材活用課と連携し、ふくいの木を活用した「木づかい体験会」を実施しました。その概要は以下の通りです。

◆概要

将来的なふくいの木の利用者であり、これからの福井県を担っていく未就学児を対象に、本学の学生がこども園等を訪問し、ふくいの木で作られた遊具や玩具を通じた触れ合いの中で、ふくいの木の良いところを伝える取り組み。

◆こども園での木づかい運動の実施内容

- ふくいの木を使用した鳴子作り（木下ゼミ）
全2回（永平寺松岡幼稚園、みくに未来幼保園）
- ふくいの木を使用したコマ作り（香月ゼミ）
全2回（仁愛短大附属幼稚園、安田幼保園）

今年度で3年目の活動になります。実施した園では、毎回熱心にやすりをかけたり、色を塗ったり、夢中で遊びこむ子どもたちの姿がありました。また、やすりをかける前と後の手触りやにおいの違いを感じるなど、五感を通して自然を感じる様子が印象的でした。

最後に「木づかい体験会」に参加した学生の感想を掲載します。

- 活動の前後の声掛けや導入の内容は、子どもたちの取り組み方や興味に大きく影響することがわかった。
- 子どもたちと一緒に活動することで、触った感覚や匂いなどを通して自然を肌で感じてもらうことができたし、自分自身も感じる事ができた。
- 友だちと関わり合いながらどうすれば良いのかを考えながら活動していたことから、コミュニケーションを促進する効果もあるとわかった。



自治体等との連携事業

自治体と仁愛女子短期大学との連携事業報告

総合学務センター 入学・地域支援課

協定に基づいて、今年度も相互に連携・協力して様々な事業を行いました。

【永平寺町】

○気になる子への関わり方（園巡回）

内 容：子どもの見方、支援の方法等

講 師：本学 幼児教育学科 准教授 中尾繁史

開催日：2022年 5月26日(木) 松岡幼稚園
2022年 6月 2日(木) 吉野幼稚園
2022年 6月 3日(金) 御陵幼児園
2022年 6月 9日(木) 志比南幼児園
2022年 6月10日(金) 松岡西幼児園
2022年 6月16日(木) なかよし幼児園
2022年 6月24日(金) 上志比幼児園
2022年 6月30日(木) 志比幼児園
2022年 7月 8日(金) 松岡東幼児園
2022年 8月22日(月) 志比幼児園【研修】
2022年 8月25日(木) 吉野幼稚園
2022年 9月20日(火) 松岡幼稚園
2022年10月28日(金) 松岡西幼児園
2022年11月 1日(火) 志比幼児園
2022年11月 4日(金) 志比北幼児園
2022年11月11日(金) 上志比幼児園
2022年11月25日(金) なかよし幼児園
2022年12月 6日(火) 松岡幼稚園
2022年12月 9日(金) 志比南幼児園
2022年12月16日(金) 御陵幼児園
2023年 1月13日(金) 松岡東幼児園
2023年 2月 2日(木) 御陵幼児園

【森田地区】

○森田駅構内の夢ギャラリー森田へ作品等展示

2022年 5月 附属図書館
2022年 7月 入学・地域支援課
2022年 9月 食物栄養専攻
2022年10月 生活情報デザイン専攻
2023年 1月 幼児教育学科
2023年 3月 入学・地域支援課



【夢ギャラリー森田 展示風景】



自治体等との連携事業

図書館の活動報告

附属図書館 竹下 真弓

図書館では、知識と出会う場として、様々な企画や展示を実施している。

2022年5月から、本学卒業生と森田地区住民の方への貸出サービスを再開した。開館日時等の詳細は、附属図書館HPをご確認いただきたい。(https://www.jin-ai.ac.jp/library/library.php)

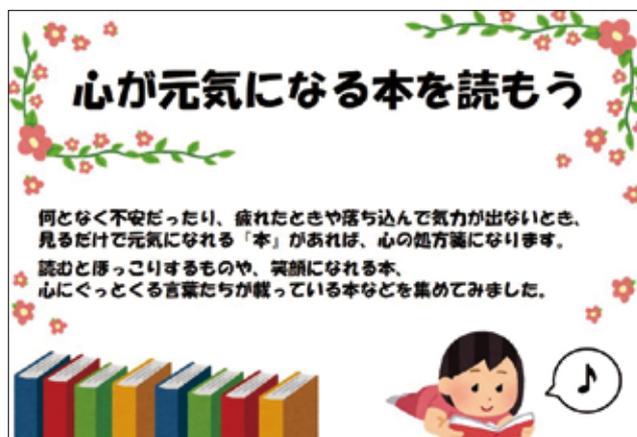
●2022年4月「本屋大賞受賞作品展」

2022年本屋大賞受賞作『同志少女よ敵を撃て』逢坂冬馬著をはじめ、候補作品あわせて10冊を展示した。



●2022年6月「心が元気になる本を読もう」

笑顔になれる本、心にぐっとくる言葉が掲載されている本を25冊展示した。



●2022年5月「戦争と平和を考える」

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続く中、本を通して平和について考えるきっかけになればと、本学図書館が所蔵するおすすめの絵本や図書を25冊展示した。



●2022年9-10月「図書館サポーター選書本」

後期の授業開始に合わせて、図書館サポーター14名が選書した図書・CD・DVDなど48点をおすすめのコメントを添えて展示した。同年代の学生が選ぶ図書等は、人気があり、頻繁に貸出され、工夫を凝らしたPOPも見応えがある。



●2022年10月「映像化された作品特集」

図書館に所蔵している映像化された小説とDVDを39点展示した。改めて小説や映像を読み返したり、見返したりする学生の姿が多く見られた。



●2022年12月「第10回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されている。

その中から3作品(今年は、『幸福のはさみ』・『おきなぐさ』・『お菓子の大舞踏会』)を図書館が選び、作品の持つ魅力を一層際立たせる表紙を選ぶコンテストを実施した。どの作品も個性あふれる素敵な表紙だった。

※今年度優秀賞受賞作



●2022年11月「読書の秋に読みたいおすすめの本!」

毎年、各学科・専攻の教員から推薦していただいている本から9冊、図書館所蔵の本から行楽・芸術・食関係の本を11冊選び、計20冊を展示した。



●2023年1月「絵本なぞなぞシリーズ作品展」

幼児教育学科「保育内容指導法 言葉」(1回生)の授業で過去に創作された作品の中で選出された32点となぞなぞ関連の図書や絵本もあわせて展示した。学生が創作したなぞなぞとそれに関連する貼り絵が施されている。先輩方の作品を、お手本にと作品を鑑賞する姿が見られた。



●2022年12月「写真サークル作品展」

“他人が見る世界、見たくないですか?”をテーマに写真サークルの作品展示を開催した。顧問の澤崎先生



の提案により、メタバース空間にも写真展の場を設定した。図書館というリアルな展示と仮想空間での展示により、それぞれ違った視点で体験できた。



2022年度は、図書館の企画・展示を14回実施することができた。

今後も、この企画や展示が新たな本や知識と出会うきっかけになるよう努めていきたい。

令和4年度報告

福井市子ども家庭センター 子育て支援室・相談室

室長 安井 弘二

子育て支援室・相談室は、福井市の事業委託「子ども相談事業・子育て支援事業」を行い、開所して16年が経過しました。この3年間はコロナ禍で、様々な不安を抱えながら子育て支援室・相談室を利用される方も多く、職員は利用者の言葉に真摯に耳を傾け、安心して子育てができるよう支援を行ってきました。児童・生徒の相談についても、家庭生活や学校生活が円滑に進められるよう、来談者の気持ちに寄り添った支援に努めました。



「ママと子の絵本とわらべうたあそび」



親子講座「リトミックあそび」



季節の行事「豆まきごっこ」



感染症対策
「親子で手洗い」

【相談室 ～子ども相談～】

相談室では、心理担当職員らが18歳未満の子どもの養育や性格に関する相談等に応じました。相談者の多くは、子育て家庭の保護者で、内容としては「すぐにかんしゃくを起こす」「食事を摂らずに遊んでいる」「落ち着きがなくじっとしていない」等で育児やしつけについて負担を感じている方や家族関係でストレスを感じ精神的に不安定になっている方もあり、その思いを聴き必要に応じて助言等を行いました。

<令和4年度 相談対応件数>

子ども相談のべ件数	内訳:対応方法(件)				開所日数
	電話	面接	訪問	その他	
1,099件	756	282	20	41	308日

<令和4年度 相談主訴割合>

養護	障がい	性格行動	不登校	適性	育児しつけ	その他
24%	1%	16%	5%	0.4%	40%	13.6%

【子育て支援室 ～福井市地域子育て支援センター～】

子育て支援室は、今年度も福井市の指導に従い、時間予約制の運営を行いました。利用者が安心して過ごすことができるよう、入室前には健康状態の確認、県外移動歴の確認を行わせていただきました。また、室内では、

入室時と退室時に手洗いをお願いし、利用者同士が密にならないように声を掛けたり、定期的な換気をしながら感染防止の徹底を図りました。

<令和4年度 来所利用者数>

総利用者数(人)	保護者数	子ども数	開所日数
			5,405人

<子ども年齢別利用割合(年度比較)>

子ども年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4～6歳児
令和3年度	26%	31%	18%	15%	10%
令和4年度	25%	34%	15%	11%	14%

そして、利用者には「県感染拡大警報」中の生活の仕方の工夫について聞き取りをする中で、他の利用者にも参考になることを子育て支援室の壁等に掲載しました。



季節の行事
「たなばたかざり」



親子プログラム
「てがたづくり」

子育て支援室の主な事業

《子育て相談》

乳児のミルクを飲む量が少ない、離乳食の作り方や与え方が分からない、食事を食べてくれない、睡眠をとらずに泣いてばかりいる、発達に関することではお座りが上手くできない、ハイハイをしない、歩行や発語が遅いので心配、予防接種に関することや保育園入園に関する心配事等様々です。主に保育士が相談を受けますが、内容に応じて相談室の臨床心理士と連携しながら保護者と子どもの支援にあたりました。

《子育て講座、親子プログラム》

利用者に関心を持ってほしい内容や子育て力を高めってもらうために役立つ内容の話題提供を行いました。

項目	内容
子育て講座(学園連携含む)	・夜泣きの対応について ・わらべうたあそび
親子講座(ボランティア講師)	・えっちゃん絵本をよんで ・ミュージックケア
季節の行事	・たなばたのつどい ・まめまきごっこ
親子プログラム	・ママと子のおはなし会 ・ふれあいあそび
親支援事業	・はっぴいすmama ・ほっとるーむ はぐはぐ
地域支援活動	・松本公民館 ・桜木図書館



地域支援活動 松本公民館



子育て講座「えいごであそぼう」

《はっぴいすmama》

転勤などで福井に転入してきて、地域のことが分からず不安に思っている利用者や、そのことで引きこもりがちな利用者に働きかけ、同様の境遇にある者同士が交流し情報交換する場を設定しました。今年度は市内在住者も加わることで子育てに関する話し合いの他に耳より情報を豊富に得ることが出来たようです。

参加をきっかけに交流が広がっています。

《ほっとるーむ はぐはぐ》

子育ての不安感や困り感、ストレスなどが強いと感じている参加者が集まりました。心理担当職員がコーディネーターとして関わり、大人だけの空間を設定して、テーマに沿った話し合いを行いました。

《学園連携 子育て講座》

幼児教育等を専門に研究する仁愛女子短期大学の教員を講師に招いて子育て講座を開催しました。また、学生の参加を得ることで、様々な世代が、子育て支援に参加する社会づくりを推進していきたいと考えています。

開催日時	テーマ/講師
7月27日(水) 10:00~10:30	ミニコンサート 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏
9月4日(日) 10:00~10:30	えいごであそぼう 仁愛女子短期大学 野本 尚美氏
12月22日(木) 10:00~10:30	いろいろな音を楽しもう 仁愛女子短期大学 木下 由香氏
3月17日(金) 10:00~10:30	わらべうたあそび 仁愛女子短期大学 坂本 流美氏

講座に必要なものは学生らが手作りで準備をしてくれました。3歳位までの子どもが喜ぶわらべうたあそびを調べ、事前に練習を重ねて当日に臨んでくれました。そのような新鮮な感覚を持つ学生らが手遊び等を提供すると、子どもたちは夢中になって楽しんでいました。保護者からは、「童心にかえり、子どもと一緒に楽しむことができ有意義であった」「ちょっと工夫すれば、楽しい遊びが生み出せることを知り参考になった」等の感想が寄せられました。

《仁短生 体験学習》

幼児教育学科2回生が、子育て支援の授業の一環として子育て支援室にて体験学習を行いました。1日あたり2~3名の学生さんで実習しますが、利用者の方が思わず微笑んでしまうような素敵なエプロンあるいは靴下を着用して場を和ませてくれた方もいました。



体験学習の様子

《子育て支援ボランティア た・ま・ごの会》

過去に福井市と子育て支援室・相談室が協力してボランティア養成講座を開催し受講された方が中心となり、「子育て支援ボランティア た・ま・ごの会」を結成し8年が経過しました。子育て支援室の壁に季節のモチーフを飾り付けたり、親子活動の下準備、行事のお手伝いなど計22回のべ38名の方々に活動いただきました。



た・ま・ごの会 飾り付け

《児童虐待防止普及啓発事業》

11月は児童虐待防止月間となっており、全国各地で様々なキャンペーンが繰り広げられています。当所でも、子ども福祉課と連携し児童虐待防止普及啓発活動の一環としてパネル展を実施しました。

社会的活動報告

福井市の下水道事業で使用する電気自動車／福井市企業局 ECOカー・ボディラッピングのデザインが採用に。

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 2回生 宮本 未来



最優秀賞を受賞し、自らのデザインがラッピングされ完成した電気自動車の前でコメントを述べる宮本さん。

福井市の上下水道を管理する福井市企業局が、新たな公用車として電気自動車を購入するにあたり、広報やゼロカーボンシティの実現に向けた啓発活動として、ボディラッピングデザインを6月～7月にかけて募集しました。これは若手職員の提案を事業化する「チャレンジみらい予算」の取り組みで、下水道に愛着や関心を持ってもらえるようなデザインを求めていたそうです。そして、応募125点の中から、生活情報デザイン専攻2回生の宮本未来さんの作品が最優秀賞に選ばれました。選ばれたポイントは、汚水のしずくが浄化されていくデザインが評価されたとのこと。10月27日には、実際に宮本さんのデザインがラッピングされた電気自動車が福井市企業局庁舎前で関係者に公開後、式典で表彰され「デザイ

ンした車を多くの人たちに見ていただき、下水道に関心を持ってもらえたらうれしい」とコメント。この電気自動車は、災害発生時には非常用電源として水中ポンプや投光器などを活用できるデモンストレーションも行われました。



電気自動車の運転席に、実際に座ってマスコミの取材撮影に応じました。



式典では、企業管理者から表彰されました。



マスコミや市関係者ら約50人が参加したお披露目会とデモンストレーション。



最優秀賞を受賞した作品のテーマは「下水から、明るい未来へ」。



水を淡い水色で表現し、県花の水仙や福井市の花アジサイも描かれたデザイン。

社会的活動報告

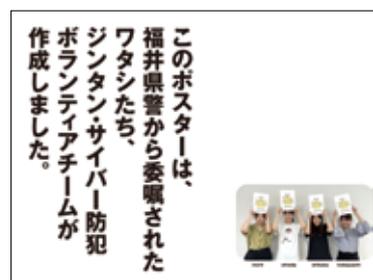
インターネット犯罪の被害防止に協力／福井県警サイバー犯罪対策課
サイバー防犯ボランティアが、スマホの危機を伝える。

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 西畑ゼミ
小林音巴・塩田和・柴田瑞希・森井美樹



◀ コピーとピクトグラムでデザインした啓発ポスターの一部。左上(緑)小林さん、右上(紫)森井さん、左下(赤)柴田さん、右下(青)塩田さんが担当しました。

発表のタイトルに使用した、4人の紹介スライド。▼



福井県警がインターネット犯罪の被害防止につなげようと、毎年福井大学、福井工大、仁愛大学、そして仁愛女子短期大学に「サイバー防犯ボランティア」を委嘱。本学から生活情報デザイン専攻2回生の小林音巴さん、塩田和さん、柴田瑞希さん、森井美樹さんの4名が参加。5月26日に県警本部で委嘱式があり、森井さんが代表で出席。「デザインを学んでいることを、ポスター制作などで活かすことで同世代の人たちに活動を知ってもらい、防犯意識を高めてほしい」と構想を語りました。

近年ネットでのなりすましや個人情報の搾取など、ス

マホを日々使用する未成年者にもサイバー被害が広がっている現状をレクチャーされた4人は、仁短での学びを活かしたコピー

(言葉)とピクトグラムで21種類の啓発ポスターをデザイン。10月22日の仁短祭での展示や、12月16日の県警による仁愛女子高校での講演に協力しました。



5月26日に福井県警本部にて、サイバー防犯ボランティアの委嘱式に出席しました。



10月22日の仁短祭で、カフェテリア廊下でポスターを展示しました。



12月16日仁愛女子高校において、福井県警の「高校生における情報モラル講演」に同行。ポスターを紹介しながら、いかにサイバー犯罪に巻き込まれないか、という啓発活動を行いました。



社会的活動報告

トラッシュグリーン

拾ったゴミで生き物の制作と展示

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 2回生 岡本 真奈

捨てられたゴミが生き物や環境に悪影響を及ぼしている。トラッシュは英語で「ゴミ」、グリーンは「少しずつ拾い集める」です。捨てられているゴミを集め、生き物に見立てた作品を制作し、森田駅内夢ギャラリー森田に展示しました。

2. 方法

[展示期間] 2022年10月7日(金)～10月31日(月)

[展示場所] 森田駅内夢ギャラリー森田

[家から持ってきたもの]

- ・一升瓶ケース
- ・薄い木の板

3. 結果・考察

ゴミ集めは、鷹巣海水浴場、河和田地区、福井市稲津町、鳥羽地区、越廼海水浴場にきました。鷹巣海水浴場には月一のペースでゴミを少しずつ集めに行きました。綺麗にしたはずなのに一ヶ月後にはまた同じようなゴミが落ちていました。全体的に一番多かったゴミはタバコの吸い殻です。海ではペットボトルキャップが多く捨てられていました。次にゴミが生き物にどのような影響を及ぼしているのかを調べました。生き物は餌とゴミを区別できず食べてしまい、最悪の場合死んでしまう可能性があります。

す。海洋ゴミは2050年には魚より海洋ゴミの量が多くなると言われています。次に作品を作りました。1つ目は《二重鳥格》(図1)です。名前の由来は前と後ろで表情が違って見えることから名付けました。オシドリをイメージしながら作りました。2つ目は《かいゾック》(図2)です。福井県は越前蟹が有名なので蟹をイメージして作りました。名前の由来はピーターパンにでてくるフック船長をモチーフにしています。片方の足はハサミだけど、もう片方はフックになっています。最後は《オールがめ》(図3)です。かめをイメージして作りました。名前の由来はたくさんのペットボトルキャップを使っており、色とりどりの甲羅、世界の文字が書いてあるキャップを使用しているのでオールがめと名付けました。工夫点は頭の部分を全てタバコの吸い殻で埋めたことです。今回の展示を通してゴミは再利用できるものだと知ることができました。研究が進むにつれ、ゴミを「拾う」から「集める」に言葉が変わっていました。それはゴミを集めて生き物を作ったことでゴミを一つの「物」として見るようになったからです。私の町内では半年に一度にゴミ拾いがあります。そのことを見習い半年に一度は他の地区のゴミ拾いをしたいと思います。またゴミ拾いをする事でゴミを捨てる人が減り、森田のゴミも減ると嬉しいです。



(図1)二重鳥格



(図2)かいゾック



(図3)オールがめ

社会的活動報告

二婆とのんちゃんの無人販売

生活科学学科 生活情報デザイン専攻 2回生 木原 望実

私が仁愛女子短期大学で育てたさつまいもを森田駅で販売しようとしたのですが、収穫した野菜が足りなかったの
で、私の祖母のしげ婆ちゃんと友達の祖母のえつ婆ちゃんから野菜を預かり、「二婆とのんちゃんの無人販売」を
実施しました。

野菜の値段がわかるようにポスターを制作しました。(図
1) 緑・黒・白の3色と決めて作成しました。二婆との
んちゃんの似顔絵のイラストを描いて生産者が分かるよう
工夫しました。

[販売期間] 2022年10月7日(金)から10月31日(月)

[販売場所] 森田駅内の夢ギャラリー森田(図2)

1週間ごとに新しい野菜を置きました。

[販売した野菜 単価 個数] (図3)

- ・さつまいも (@30円)6コ
- ・ドデカさつまいも (@30円)10コ
- ・じゃがいも (@10円)42コ
- ・ピーマン (@20円)172コ
- ・たまねぎ (@20円)10コ
- ・かぼちゃ (@50円)1コ
- ・にんにく (@200円)7コ
- ・なす (@30円)9コ
- ・ヤマボウシの苗 (@150円)1コ

無人販売で集まった金額は2038円でした。6410円売
上があるはずでしたが、現金差が4372円発生しました。現
金差が発生した原因は、①ポスターの金額が見にくかつ
た。②お金入れに蓋がない箱だったからお金がとられた。
の2つだと考えました。思ってた以上の売上はありません
でしたが、無人販売は家では食べきれない野菜を販売で
きたので、他者が消費できないものを別の人が消費する
事になり「12つくる責任つかう責任」SDGsの考えに繋
がっています。

森田駅でのこの企画は電車を利用する方に別の目的が
増え、森田駅が普段より賑わっていました。

えつ婆ちゃんとの交流から「人から良いことをされると
何かお返しをしたくなる」という考え方を学びました。ま
たえつ婆ちゃんとは、顔見知りではあったものの、今回を
きっかけにお話できて楽しかったです。しげ婆ちゃんとも
話す頻度が多くなり、無人販売を通して、しげ婆ちゃん
やえつ婆ちゃんの暮らしは「つくる」側の生活というこ
とが分かりました。祖母たちは野菜を栽培し、収穫した
野菜で料理をします。今の私は「買う」側の生活をして
いますが、これからは「つくる」側の生活もしていきたい
と思いました。



(図1) ポスター



(図2) 二婆とのんちゃんの無人販売



(図3) 販売した野菜(一部)

社会的活動報告

季節の壁面を作ろう

幼児教育学科 2回生 宮本 瑠奈

わたしたち、松川ゼミでは、毎月様々な素材を使って工夫した壁画を作成して、小児がんで入院する子どもたちがいる病院に届けました。この活動を選んだ理由は、入院している子どもたちを元気づけたいという想いと、わたしたちが苦手意識を持っていた壁面製作を経験して保育現場に役立てたいという想いです。また、壁面を見た子どもたちが季節感を味わいながら壁面を楽しんでもらいたいという想いから活動を続けてきました。壁面は、毎月のイベントや季節に合ったテーマを考え、イメージを膨らませていき、さらにそのテーマに沿ったびつりの素材を探し、画用紙、折り紙と組み合わせ製作を進めていきました。工夫した素材については、綿、ビーズ、テグス、毛糸、和紙、新聞紙、ビニール袋、マジックテープ、絵の具を用いました。立体的な壁面を作ることを意識して作っていきました。

例えば、六月の壁面では、ビーズとテグスを使い雨が降る梅雨の様子を表現し、七月は七夕の飾りを折り紙で作り貼り付けました。八月には全面をちぎり絵にしました。同じ折り紙という素材でも、折って使うか、ちぎって使うかで見え方も変わってくるという面白さに気づきました。十月は新聞紙を和紙でくるんだものをサツマイモに見立てて作りました。みんなで考えて実際にやってみることで新しいこと、面白いことに気づくことができ、いい経験になりました。

そして、壁面を作っていく中で、入院している子どもたちと手紙を通して交流したいと考えるようになりました。そこで、手紙を書いて送ろうと考えましたが、何か仕掛けがあるものを作りたいと思い、私たちはクリスマスツリーが開いて飛び出る仕掛けを作り、中にメッセージを付けて、小児がんの子どもたちに送り届けました。交流する中で入院している子どもたちが壁面を見た感想をいただき、また、私たちの作る壁面の反省点が見つかりました。

感想としては、「触れるのが楽しい」「かわいい」「季節感を感じる」「入院している子との会話のきっかけにな

る」などいただきました。季節感を感じて楽しんでもらうことが一番の願いだったので、実際に季節感を感じて楽しんでいただ

いていることがわかり、とても嬉しかったです。

壁面の反省点としては、取れないようにたくさん試行錯誤して完成したビーズの壁面のビーズが取れてしまい、子どもの誤嚥の可能性があったこと、病院の壁に貼る際に、飾りが取れかけていたりしていたことを教えていただきました。わたしたちは、移動のことや誤嚥の可能性について、考えや配慮が足りていなかったことを認識しました。

これからわたしたちが現場に立ち壁面製作を作ることがあると思います。その時には工夫した素材を使うことも意識しつつ、保育現場に存在する危険性や、万が一のことを考えて製作していけたらと思います。ですが、この壁面製作を通して、間違いなく私たちの学びになったことはあります。誰か、人のことを思いながら作る壁面と、作らなきゃという義務感から作る壁面では、見た目、完成時の達成感が違うことです。苦手意識を持っていた壁面製作の進め方や、道具の活用の仕方を学ぶことができ、貴重な時間となりました。

これらの経験をこれから働くうえで活かしていきたいと思っています。



社会的活動報告

福井新聞社主催「ふくまむ祭」への参画

幼児教育学科 木下ゼミ

新谷日葉・福岡鈴・宮本桃衣・山口紗輝・山本遥香・渡菜々子・
橋本椎奈・淡嶋真衣・清水麗葉・高見優衣・山内優奈

- ◆日時 2022年10月2日(日) 10:00～15:00
- ◆場所 福井新聞社1階
- ◆内容 仁愛短大ブース「お姉さんたちと遊ぼう!」
ステージイベント「仁愛女子短期大学生による
ハンドベルと手話ソング」

私たち木下ゼミは音楽活動を中心に実践を行っており、今回「ふくまむ祭」という親子向けイベントが行われるということで、11名のゼミ生全員で参加することになりました。

会場の福井新聞社1階には多くのブースが設けられ、その一画で私たちは誰でも自由に参加できる“お絵かきコーナー”を企画しました。内容は、私たちが予め花型に切った様々な色の画用紙に、子どもたちに自由に絵を描いてもらい、大きな山のイラストを印刷した壁紙に貼る、という体験コーナーです。当日は、未就学児親子が約450組来場し、予想以上に賑わっていました。子ども達一人一人が思い思いに絵を描く姿が見られ、何枚も描いてくれた子や楽しそうに自分の描いた絵を説明してくれた子、絵を山に貼って個性あふれる素敵な花さき山の完成を喜んでくれた子など、たくさんの子どもの姿を見ることができました。また、子どもたちだけでなく、保護者の方々も子どもと一緒に楽しそうに絵を描き、笑顔で子どもの姿を写真で撮る様子を見ることができました。これまで



コロナ禍であまり人と関われなかった中、久々に多くの人と関わることができ、とても楽しかったです。

ブース以外に、風の森ホールで30分間のステージ発表をすることもできました。私たちはブースで作った花をもとに、絵本『花さき山』を読み、思いやりの心の大切さを訴えました。手話ソング「花さき山」「にじ」では、歌詞の一つ一つを手話をしながら説明するということがしっかり伝わるか不安でしたが、みなさん真剣に聞いてくださり、動きを真似しながら一緒に楽しく手話ソングをすることができました。その後ハンドベル「ドレミのうた」「星に願いを」の演奏では、練習時間があまりありませんでしたが上手く演奏することができ、拍手が聞こえた時は大変嬉しかったです。盛り沢山な一日となりましたが、今回のような人前に出る機会があったことで、改めて人と関わる楽しさや達成感を実感することができました。ゼミの友達や木下先生と協力し、参加して良かったです。これらの経験を活かし、今後も地域の活動や多くの人と関わる活動に参加していきたいです。(代表：渡菜々子)



2022年度 公開講座開講一覧

【木製ロボットとプログラミングで遊ぼう!】

内 容	グッド・トイ 2018 にも選ばれた、木のおもちゃキューベットと一緒に遊びながら、プログラミングの基礎を身につけます。
開催日時	2022年7月30日(土) 14:00~15:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 教授 田中洋一
会 場	仁愛女子短期大学 F203
参加人数	6組21名

【手作り楽器ワークショップ】

内 容	身近なもので自分だけのオリジナル楽器を作ってみよう! 音はどうやって鳴るのかな?音からどんなことをイメージしますか? 作った楽器をみんなの前で披露しましょう♪
開催日時	2022年8月4日(木) 10:00~11:30
講 師	本学 幼児教育学科 教授 木下由香
会 場	仁愛女子短期大学 E401 (演奏ホール)
参加人数	5組14名

【木を使った造形あそびに挑戦してみよう】

内 容	「造形あそび」は年齢に関係なく取り組める活動で、幼児に限らず小学校の図画工作、中学、高校の美術にも取り入れられています。木の枝や切れ端などを使って思うままに作品作りに挑戦してみましょう。
開催日時	2022年8月5日(金) 10:00~11:30
講 師	本学 幼児教育学科 教授 重村幹夫
会 場	仁愛女子短期大学 F102
参加人数	10組25名

【驚くパソコン講座 ~簡単な操作で効率UP~】

内 容	Excel・Word・PowerPointを同時起動しながら、効率よく操作する方法を学びます。 ディスプレイを分割したりショートカットキーを用いたりして、マルチタスク方式のパソコン操作を学びませんか。
開催日時	2022年8月13日(土) 13:00~16:10
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 帆谷和浩
会 場	仁愛女子短期大学 C102 (パソコン演習室)
参加人数	6名

【福井の食を知る①「福井梅」~梅シロップ作り体験~】

内 容	「福井梅」は、江戸時代・天保年間(1830~1844)には、現在の若狭町で発祥したといわれる、福井県を代表する果実です。この「福井梅」の特徴や栄養について学びます。 金平糖やみぞれ玉(飴)を入れた見た目にも美しく、おいしい梅シロップ作り体験もお楽しみ!
開催日時	2022年9月3日(土) 10:30~12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 教授 小林恭一
会 場	仁愛女子短期大学 B101
参加人数	10組12名

【幼教フォローアップ講座】

内 容	在学中はいまいちイメージできなかったことが、幼児教育・保育現場に出たら「なるほど!」と思えた場面は多いのではないのでしょうか。 今回のフォローアップ講座では、「子どもの発達支援」をテーマに、参加者の皆様と情報共有しながら、子どもたちとの関わり方のポイントについて学びます。
開催日時	2022年9月10日(土) 14:00～15:00
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 中尾繁史
会 場	仁愛女子短期大学 E208
参加人数	6名

【親子のための楽しいコンサート】

内 容	本学幼児教育学科生による親子を対象としたミニコンサート♪童謡や子どもたちに馴染みある曲などを演奏します。 コロナ禍の中、生で音楽を楽しむ機会も減っています。状況によりませんが、子どもたちが元気に歌ったり踊ったりできる参加型コンサートを予定しています。 気楽にご参加ください。
開催日時	2022年10月1日(土) 10:30～11:30
講 師	本学 幼児教育学科 准教授 河野久寿 幼児教育学科 卒業生、幼児教育学科 河野ゼミ生
会 場	仁愛女子短期大学附属幼稚園 体育館
参加人数	14組37名

【Autumn English Camp –自然の中で英語を学ぼう!–】

内 容	英語を使ったゲームや野外でのプチキャンプ体験を通して、親子で楽しく英語を学びましょう!
開催日時	2022年10月15日(土) 9:30～12:00
講 師	本学 生活科学学科 生活情報デザイン専攻 准教授 野本尚美 〈協力〉福井県キャンプ協会
会 場	仁愛女子短期大学 学生ホール・芝生広場
参加人数	8組18名

【食育講座 ～親子でデコレーションケーキづくり～】

内 容	おうちで一緒に、ケーキを作りたいけど準備が…と思っているお母さん。 短大の広い調理室を使って、親子でデコレーションケーキしてみませんか。 フルーツなどを飾り付けをして世界で一つだけのクリスマスケーキを作りましょう!
開催日時	2022年12月24日(土) 10:00～12:00
講 師	本学 生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見
会 場	仁愛女子短期大学 C115 (調理実習室)
参加人数	12組41名

教員の地域活動一覧

生活科学学科

(専攻別・五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
生活情報デザイン専攻	コミュニケーションマーケティング経営	<ul style="list-style-type: none"> ●効果的なプレゼンテーション手法について ●地域におけるマーケティングのあり方について ●ソーシャルメディアとビジネスの活用 ●地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ●企画立案、広報手段について ●コミュニケーションのあり方 ●キャリアデザイン、学びと学習環境等
	教育工学 学習科学	<ul style="list-style-type: none"> ●保育者のためのパソコン教室 ●幼稚園における視覚教育研修 ●eポートフォリオ活用の研修 ●アクティブ・ラーニングのための授業設計の研修
	グラフィックデザイン ビジュアルコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ●デザイン研修/基礎コース デザイン基礎コースの講師 ●屋外広告物講習会(屋外広告業の経営者および従事者、管理者へのデザイン講習) ●福井県高校総合文化祭 美術・工芸部門(美術部高校生や美術関連教員に向けた講演会) ●高度技術者招聘事業(特別授業開講) ●ふくふくベジファースト応援事業「ベジファースト/ロゴ・ポスターデザイン」 ●ふくいサラダニンジンプロジェクト「新種ニンジンのネーミング企画・ロゴマークデザイン」
	英語教育 第二言語習得論	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児向け英語教室 ●小学生向け英語教室 ●洋楽で英語を学ぼう
	テキスタイルデザイン ファッションデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ●ファッションショーの実施 ●染め物ワークショップ ●ファッション小物制作ワークショップ ●企業連携テキスタイル商品企画 ●テキスタイルデザイン図案制作
食物栄養専攻	食品学 食品加工学 農産製造学 応用微生物学	<ul style="list-style-type: none"> ●県産食材の栄養・機能成分と加工 ●奥越特産サトイモについて ●野菜の栄養・機能成分について ●ふくいの加工食品あれこれ ●食品添加物の話 ●永く守り、受け継ぎたい伝統の福井野菜 ●食品加工の基本 ●加工食品の知識と視る目を養う ●6次産業化のための普及活動のポイント ●ジャム作りの基礎 ●サトイモ加工に関する取り組み、6次産業化について ●6次化に取組む時に考えなければならないこと ●加工食品の知識 ●福井県農産物の加工技術・食品開発 ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「食品学」「食品衛生学」 ●福井ウメの機能成分解析と特長を活かした利用加工 ●野菜の栄養・機能成分と機能性表示食品 ●「福井梅」の歴史、栄養、機能性、加工利用、研究開発事例 ●「自然は美味しい?!～発酵食品と食品添加物の話～」 ●「栄養成分表示の活用について」 ●「福井梅」の栄養・機能性を活かした利用加工 ●福井の食を知る①「福井梅」梅シロップ作り体験 ●福井の食を探る「梅」と「らっきょう」 ●農業ビジネスと6次産業化について
	生物科学 社会医学	<ul style="list-style-type: none"> ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座
	公衆栄養学	<ul style="list-style-type: none"> ●あなたの食卓から子どもの未来を考える ●「日本人の食事摂取基準2015」を活用した児童福祉施設における栄養管理 ●食と健康-生活習慣病予防で健康寿命を延ばそう- ●働く女性の健康管理-食事の工夫- ●女性の健康と食生活 ●健康は栄養管理から-低栄養のキケン- ●管理栄養士国家試験対策リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」
	調理科学	<ul style="list-style-type: none"> ●親子で作るデコレーションケーキ ●親子クッキング ●食育講座(調理実習) ●離乳食教室

● 幼児教育学科

(五十音順)

専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など
健康体力学 測定評価学	内田 雄	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童厚生指導員研修会「ゲーム・運動遊び」 ● 保育者ワークショップ「昔遊びを楽しもう」 ● 小学校 1. 2. 3 年生が楽しめる室内遊び、昔遊び ● ゲーム・昔遊び
保育	小川 智枝	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育士スキルアップ研修 主任保育士研修「子ども家庭支援論」
仏教学 仏教保育学 おもちゃ学	香月 拓	<ul style="list-style-type: none"> ● 保育者ワークショップ「身近な素材でおもちゃをつくらう」 ● 新人保育者スキルアップ「新聞紙で遊ぼう」 ● こどもの成長とおもちゃあそび ● メンタルケア・スペシャリスト養成講座「死生論Ⅰ」 ● 子育て講座「おもちゃで育む親子のふれあい」 ● 自分とは何か-お釈迦様のことばに学ぶ- ● 人生は楽しいもの? 苦しいもの? -お釈迦様のことばに学ぶ-
音楽	河野 久寿	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化に親しむ「コンピュータによる音楽の作り方」 ● 子どもの音楽的感性を育む実践指導 ● 合奏から学ぶ ● 遊法師コンサート ● あそびほうしコンサート (幼児・小学生対象コンサート) ● 長崎への想いを綴る～作曲家として表現～ ● 幼児教育における音楽 ～幼児教育においての音楽の果たす役割や、保育士・幼稚園教諭の音楽的資質について～
音楽教育 ピアノ教育 ピアノ演奏	木下 由香	<ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと子どもコンサート ● ピアノ公開講座 ● まちかどコンサート ● 手作り楽器ワークショップ ● 親子で楽しむピアノと絵本 ● 親子のための虹色コンサートin大野「手作り楽器ワークショップとミニコンサート」 ● 親子のための虹色コンサートin AOSSA ● ポルタDe'ファツィオリ「ピアノふれあい体験」 ● 聴いて、見て、動いて楽しむ! 0歳からのクラシックコンサート ● いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭 ● AOSSA子育て支援室「いろいろな音を楽しもう」 ● 越前まなぼう座「親子でわくわく子ども教室」親子で一緒に! 手作り楽器を楽しもう! ● 越前市幼稚園教育研究部夏季研修「リトミック、リズム遊び」
幼児造形指導法 洋画制作 洋画原書翻訳 明治期日本における洋画の受容	重村 幹夫	<ul style="list-style-type: none"> ● 明治前期の油絵技法材料について ● 造形を通した子どもとの関わり方 ● 小学校低学年児童が作って遊べる道具 ● 幼児の造形や既習能力に応じた造形活動のあり方について ● 幼児の主體的な造形活動のために-「造形遊び」を中心に-
児童発達支援 特別支援教育	中尾 繁史	<ul style="list-style-type: none"> ● 気になる子への支援教材の作り方 ● 子どもの「あのね」を引き出す関わり方 ● 情報共有のための観察と記録の視点 ● 「気になる子」への対応
日本文学 児童文学 国語科教育	前田 敬子	<ul style="list-style-type: none"> ● 発見 百人一首の世界 ● 歌う金子みすゞ ● 絵本や物語に親しむ ● 加古里子の絵本 ● 保育者ワークショップ 書くこと、読むことの保幼小連携
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	<ul style="list-style-type: none"> ● 新保育所保育指針について ● 指導要録 保育要録について ● 「遊び」とは何か ● 連絡帳の書き方 ● 保育者だからできること 保育者にしかできないこと ● 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の視点について ● 4歳児の育ちについて ● 5歳児の育ちと小学校への接続について ● 歌う楽しさの原点にあるものは? ● 気がかりな子を包み込む集団づくり ● 外国籍の子どもや保護者は何に困っているのか ● スマホ育児 ちょっとだけでも分かっておきたいこと

SOCIUS [ソシアス]
No.17

2023年3月31日 発行

仁愛女子短期大学 総合学務センター
入学・地域支援課 地域連携室

〒910-0124 福井市天池町43-1-1
TEL.0776-56-1133 FAX.0776-56-2922
E-mail jissen@jin-ai.ac.jp



仁愛女子短期大学

総合学務センター
入学・地域支援課